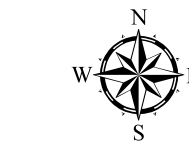


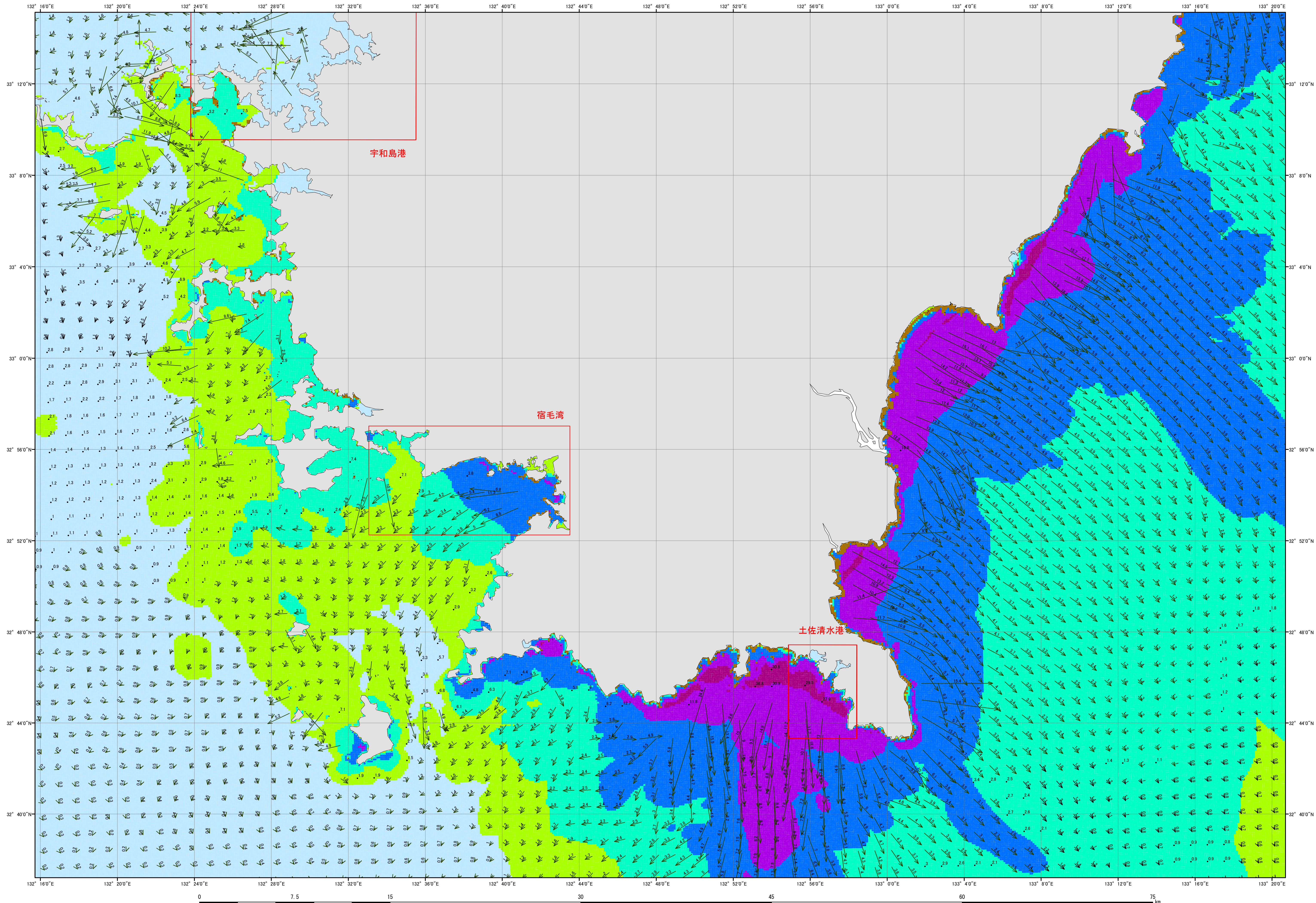
# 四国南岸（南西部）広域津波防災情報図（引潮図）

計算条件：最低水面（零位）  
 Zo：1.10m ~ 1.30m  
 隆起量：平均 -1.16m(-2.29m ~ +2.39m)  
 備考：本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のもとは異なることがある。



座標系:メルカトル図法  
 測地系:世界測地系(WGS84)

赤枠内には、さらに詳細な港湾の津波防災情報図があります。



## 凡例

最大水位低下

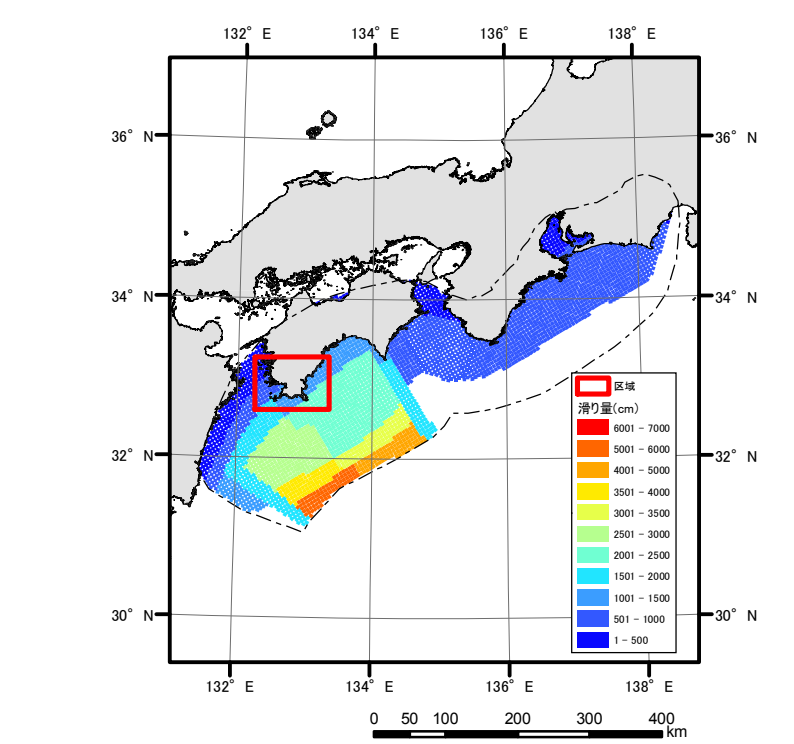
- 20~最大36.4m
- 10~20m
- 5~10m
- 3~5m
- 2~3m
- 0.5~2m
- 0.5未満
- 露出域

引潮時最大流 [knot]

- 6 knot
- 4 knot
- 2 knot

- 流向変化が激しく、進入、引潮等の判定が困難な海域では流速のみを表示した。
- 流向、流速の表示については、陸岸から概ね500m以上離れた地点から表示した。

断層モデル



ケース⑤「四国沖～九州沖に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km <sup>2</sup> )	140,000
地震モーメント Mo (N·m)	6.3 X 10 <sup>22</sup>
平均すべり量 D (m)	10.7
モーメントマグニチュード Mw	9.1

本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）」（平成24年8月29日発表）により公表されたものである。  
 使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、土佐清水港付近において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。

作成機関：海上保安庁  
 防災情報作成年月：平成29年6月（初版）  
 地図データ作成年月：平成19年10月（初版）  
 改訂：平成24年3月（改訂）

- 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム（ArcGIS 10 対応）」を使用した。
- 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。  
 ・海上保安庁が保有する水深データ